

# TAMBA Mirai Project 丹波からTAMBAへ

～グローバルな視点で丹波の課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～

兵庫県立柏原高等学校



SDGs のテーマに関連する地域課題を海外の学校を含めたコンソーシアムで共同研究

○**高齢化、人口減少・流出への対策** 雇用促進、地域医療の充実、定住・移住促進 等

○**豊かな自然環境との共存、有効活用** 防災対策、里山、丹波竜を生かしたグリーンツーリズム 等

SGHアソシエイト校(H26～)  
ひょうごスーパーハイスクール(H30～)

## グローバル

世界の人々との協働に必要な国際的視野、チャレンジ精神、英語運用能力の育成

## ローカル

地域の活性化や課題解決に必要な地域理解力、発案力、実践力の育成



丹波の課題＝世界の課題 と捉え、「ローカル」×「グローバル」な視点で課題研究  
協働の中で培われる課題解決力でTAMBAを支えるリーダー育成

ふりがな	ひよごけんきょういくいいんかい	ふりがな	ひょうごけんりつかいばらこうとうがっこう
管理機関名	兵庫県教育委員会	学校名	兵庫県立柏原高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名：兵庫県教育委員会事務局高校教育課

代表者名：西田 利也

(2) 学校名：兵庫県立柏原高等学校 学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：井上 千早彦

### 2 取組内容

(1) 地域課題に関する課題研究

ア テーマ等

SDGs（持続可能な開発目標）のテーマに関連する以下の地域課題を海外の学校を含めたコンソーシアムで共同研究を行う。

○高齢化、人口減少・流出への対策として、定住・移住促進、雇用促進、地域医療の充実、伝統工芸（丹波布）の継承、空き家利活用等について取組む。

○豊かな自然環境との共存、有効活用として、防災対策、里山、丹波竜を生かしたグリーンツーリズム、ユニークな生態系、森林再生等について取組む。

イ 海外の連携先、研究テーマ

・ケント市、オーバン市（アメリカ ワシントン州） 「観光振興」

・金海外国語高校（韓国） 「防災・減災対策」

・桃園市至善高等学校（台湾） 「地域医療・高齢化問題」

・パンナサストラ大学（カンボジア） 「教育事情」

・クメール伝統織物研究所（カンボジア） 「丹波布の復興と伝承」

ウ 地域の連携先

丹波市、丹波市国際交流協会、丹波市商工会議所、丹波市観光協会、丹波医療センター、福知山公立大学北近畿地域連携センター等

エ 研究成果の発信

○地域課題から世界を考える日

平成27年度から学校独自で行っている行事で、課題研究の成果の発表の場としてきた。本事業により、コンソーシアムの各機関に加え、地域住民、在住外国人等も招いて、研究成果を基に、地域課題、地球課題について共に考える機会として発展させる。

○グローバル・サミット（仮称）

アメリカ、韓国、台湾、カンボジアの教育機関とそれぞれ個別に行う共同研究について、連携校をテレビ会議で結ぶことで、研究成果を共有し、全体で地球課題について意見を交わす機会とする。さらに、研究成果を共同提案書としてまとめる。

○自治体、国際機関等への提言

研究成果を自治体の関係機関はもとより、医療問題はWHOなど、可能な限り、該当テーマに関係する国際機関にも提言する。

○高校生国際問題を考える日（県教委主催）

県教委主催による国際問題に関する課題研究の発表の場であり、本事業による研究手法や成果を発表し、他校への普及を図る。

(2) 海外留学・国際交流等の促進

ア 長期・短期留学派遣、受入

昭和41年度から続くアメリカ ワシントン州ケント市、オーバン市との高校生長期交換留学制度

（1名ずつ1年間）を継続させる。留学については、「トビタテ！留学JAPAN」への積極的な応募を呼びかける。また、受入については、様々な国から高校生を積極的に受け入れており、ワシントン州からの留学生も含めて、本事業に関連づけて、積極的に活用する。

イ 台湾修学旅行

平成24年度から実施。課題研究の連携先である桃園市至善高等学校にも訪問する。

ウ 上記海外連携校との相互訪問等

金海外国語高等学校（韓国）との相互訪問、パンナサストラ大学、クメール伝統織物研究所（カンボジア）への訪問による交流

(3) 高度な英語運用能力の育成

ア ICTを活用した英語教育の充実

タブレット端末の活用により、言語活動を充実させ、発信力を強化する。

イ 丹波イングリッシュ・キャンプ

- 地域のALT、ボランティアの協力を得て、地域の中学生を招き英語漬けの合宿を開催する。
- ウ テレビ会議等による海外校との共同学習
- エ 英語でしゃべランチ  
コミュニケーション能力の向上、多文化理解を目的に地域の外国人と高校生が英語で話す場を毎日昼休みに提供する。
- エ ひょうごグローバル・リーダー育成キャンプ（県教委主催）等への積極的参加

**(4) 地域理解、活性化策の提案**

- ア 課題研究（丹波学）を通して、地域の魅力や課題の理解、解決策の研究
  - 課題研究の分野  
「地域おこし・篠山層群」「丹波の住環境」「教育問題」「医療問題」「丹波市の魅力」等
- イ 丹波市議会☆ミライプロジェクト  
丹波市議会☆ミライプロジェクトでは、丹波市議会、福知山公立大学北近畿地域連携センター、丹波市内の3高校（本校、県立氷上高校、県立氷上西高校）が協働し、丹波地域を活性化する方策について丹波市議会に提言する。

**(5) キャリア教育の推進**

- ア ローカルキャリア教員養成セミナー
- イ コミュニティナースを視野に入れた地域医療系人材養成プログラムの開発  
丹波市、丹波医療センター、丹波市内の3高校（本校、県立氷上高校、県立氷上西高校）が協働し、丹波地域に貢献するコミュニティナースを視野に入れた地域医療系人材を育成する。
- ウ 地域公務員養成プログラムの開発
- エ 起業マインド養成を視野に入れた「ようこそ先輩」授業の推進
- オ 起業マインド養成を視野に入れた「進路探究WE E K」の推進

**(6) 在住外国人との共生**

- ア 英語でしゃべランチ（再掲）
- イ 丹波市内に在住する外国人との交流の場として料理教室を実施
- ウ 丹波地域在住外国人の交流・防災支援と町内の車いすマップづくりを実施
- エ 地元イベントへの高校生派遣、災害ボランティア派遣

**(7) カリキュラムの研究・開発**

- ア 学校設定教科「グローバル」（仮称）の設定（令和2年度開講予定）  
国際的な視野で地域課題を考える活動を通して、1、2年生で学習した探究Ⅰ、Ⅱ、総合的な探究の時間、総合的な学習（探究）の時間を発展させ、大学教育で求められる課題解決能力を身につけることを目的とする学校設定教科「グローバル」を探究Ⅰ、Ⅱを学習した知の探究コースの生徒、総合的な学習（探究）を学習した普通コースの生徒が受講できるように設定する。
- イ 「世界の人々との協働に必要な国際的視野、チャレンジ精神、英語運用能力の育成」  
「地域の活性化や課題解決に必要な地域理解力、発案力、実践力の育成」に向けて教科横断的な取組を充実させる。

**(8) 実施方法**

研究推進部を中心に、教務部・進路指導部と連携し、教科横断的に実施・展開する。地域・海外でのフィールドワーク、大学・研究機関等との連携、海外交流校との協働学習などの体験的、実践的な学びを通して、少人数グループによる課題解決型探究学習により課題研究を進める。  
丹波市とSDGsのテーマに関する丹波市の地域課題を海外の高校を含めたコンソーシアムで共同研究を行うために協定を締結し、事業を推進する。地域の公的機関や団体、地元小・中学校、国内外の大学・高校等コンソーシアムを構築し、ローカルとグローバルの両方の視点から地域課題を共同研究し、具体的な課題解決策の実践事例をもって研究成果とする。

**【各教科で扱う内容】**

	事業を通して育成する資質・能力								事業の内容・テーマ			
	国際的視野	英語運用能力	地域理解	課題発見・解決能力	論理的思考力	コミュニケーション能力	情報処理能力	プレゼン能力	課題研究	地域理解・活性化策の提案	キャリア教育の推進	在住外国人との共生
国語	○		○	○	○	○		○				
地歴・公民	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○
数学				○	○	○	○	○				
理科			○	○	○	○	○	○				
保健体育				○	○	○		○				
芸術				○	○	○		○				
英語	○	○		○	○	○		○				○
家庭			○	○	○	○		○		○		

情報				○	○	○		○				
探究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合的な探究 ・学習の時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

\* 現在、事業を通して育成する資質・能力を各教科のどの単元で伸ばしていくかまとめているところである。今年度は更に、SDGsの目標に関する事柄を、各教科のどの単元でどのように扱うかを整理し、次年度の各教科での取組を強化する予定である。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
丹波市	市長 谷口 進一
丹波市教育委員会	教育長 岸田 隆博
丹波市国際交流協会	会長 山口 直樹
丹波市商工会議所	会頭 大地 但
丹波市観光協会	会長 柳川 拓三
丹波医療センター	院長 秋田 穂東
福知山公立大学地域連携センター	センター長 杉岡 秀紀
ワシントン州 ケント市	市長 ダーナ・ラルフ
ワシントン州 オーバーン市	市長 ナンシー・バッカス
クメール伝統織物研究所	代表 岩本 みどり
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也

#### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

本校のある丹波地域は、少子化に加え就職や大学進学を契機に若者が地域外に流出することで、2040年には、人口が1990年の7割弱に減少すると考えられており、定住人口・交流人口対策が喫緊の課題であり、産業の活性化、観光振興、災害への備え、地域医療の充実等に対して、行政や市民、NPOの力だけでなく、大学や地元高校生の力を「高校生提案事業」「大学との連携事業」等の事業で活用するなど、オール丹波で取り組んでいる。

そのような中で、地域の義務教育においては「ふるさと教育（地域教育）の充実」「キャリア教育」「外国語指導とICTの充実」に力を入れている。これらのテーマは本事業の趣旨と関連が深く、義務教育段階での成果をベースにして、地域課題を自治体や海外教育機関等から成るコンソーシアムの中で、地球課題と関連づけて研究し、成果を発表することで、グローバルな視点を兼ね備えた地域を支えるリーダー像を提示したい。

#### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制

##### ① 地元自治体、商工会のコンソーシアム

- ・丹波市の姉妹都市（アメリカ ワシントン州ケント市、オーバーン市）との高校生地域活性化会議及び交換留学の実施
- ・各機関からの研究テーマに関する情報、データ等の提供
- ・丹波産を活かした活性化案の提案
- ・丹波三宝、地場産品を活かした健康長寿食の提案
- ・地元イベントへの高校生派遣、災害ボランティア派遣

##### ② 海外の大学、高校、NPOとのコンソーシアム

- ・ワシントン州ケント市、オーバーン市との国際交流の推進、観光振興に関する研究
- ・カンボジアのNPO（カンボジアシルクの復活）とコラボした丹波布復活プロジェクトなどの提案、現地訪問
- ・パンナサストラ大学（カンボジア）との教育問題に関する研究、現地訪問
- ・金海外国語高校（韓国）との防災・減災対策に関する研究、相互訪問
- ・テレビ会議等の活用による共同研究

##### ③ 大学、小・中学校とのコンソーシアム

- ・大学との丹波地域活性化案の共同研究
- ・地域の児童支援ボランティア
- ・地元中学校との教育連携

##### ④ 教育委員会とのコンソーシアム

- ・地域貢献活動
- ・学校現場での職場体験（インターンシップ）等の実施

##### ⑤ 地元の高校とのコンソーシアム

- ・ローカルキャリア教員養成、地域医療系人材養成プログラム（人材育成プログラム）の共同運営
- ・地場産食品を活かした健康長寿食の共同開発

#### (4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

- ① 丹波市国際交流委員会 山口 直樹 会長

平成 30 年、丹波市、ワシントン州ケント市及びオーバン市との間で、姉妹都市提携協定書への署名が行われた。

3 都市は、今後とも文化、教育、芸術、経済など幅広い分野における交流を通じて、更なる発展と互いの理解と連携を深めることに努めていくこととしたが、丹波市国際交流協会を海外交流アドバイザーとし、本校が文化、教育の交流の推進役を務める。

②カンボジア パンナサストラ大学教授 松岡 秀司 氏

伝統織物の復興と活性化に取り組むクメール伝統織物研究所（カンボジア）においてその取組について学習するとともに、本校がある丹波市の保存会が復興のため取り組んでいる丹波布を紹介し、相互の文化交流に努める。

#### (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

福知山公立大学地域連携センター センター長 杉岡 秀紀 准教授

丹波市は地域協働型教育研究を積極的に展開している福知山公立大学と協働しミライプロジェクトを推進しながら、コンソーシアムを形成し、事業を展開する。

#### (6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員会 大学教員・研究者・学識経験者・教育委員会の指導主事等で構成し、専門的な見地から事業全体について指導、助言、評価する。

(委員)

①兵庫県立人と自然博物館館長 中瀬 勲 ②福知山公立大学 准教授 杉岡 秀紀

③関西学院大学 教授 高畑 由起夫 ④丹波市観光協会 会長 柳川 拓三

⑤神戸大学 准教授 Rooks Matthew John

⑥兵庫県教育委員会事務局高校教育課 主任指導主事 辻 登志雄

#### (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

##### 【研究成果報告】

- ・「地域課題から世界を考える日」（平成 27 年度から実施）を発展させ、コンソーシアム代表、地域住民、在住外国人等を交えて研究成果を発表、共有し、共に丹波の活性化策を考える場とする。
- ・「高校生国際問題を考える日」（県教委主催）や「SGH 甲子園」等への参加
- ・研究開発の実施状況は本校ホームページで発信し、そのまとめは関係諸機関（行政、連携大学、県内高等学校、地域内小中学校、地元関連企業等）に配布して、研究成果の普及を図る。
- ・本校独自で実施する教員インターンシップを活用し、市内小中学校で行われている「ふるさと教育」において交流、本校生徒が小中学生の探究活動の指導・支援を行う。

##### 【事業成果の検証】

- ・大学教授等による外部評価。地域フォーラム、連携大学での発表会の評価及び各種コンテストでの成績。課題研究の取組状況、研究内容に対する評価規準に基づく評価。生徒対象事前・事後アンケートによる内容の理解度や意識変容の調査。ポートフォリオ。指導改善を意識した評価方法の見直し。
- ・生徒対象アンケートによる調査。各種コンテスト、外部検定試験等の成績。各教科におけるパフォーマンス評価。

#### (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

- ①県教育委員会は、研究の進捗状況等を把握し、運営指導委員会とも連携しながら、必要に応じて指導、助言を行う。
- ②福知山公立大学がコーディネーターとなり、柏原高校と地域（丹波市、丹波市商工会議所、丹波市観光協会）とをつなぐ。
- ③丹波市教育委員会と協働し、小中学校で推進する「たんばに学び たんばで育つ たんばを担う人づくり」を継承、発展させる。
- ④丹波市国際交流委員会、ワシントン州ケント市、オーバン市と協働し、丹波市とケント市、オーバン市との国際交流を推進、発展させる。
- ⑤丹波市教育委員会と協働し、地元教育に貢献できる人材を育成する。
- ⑥クメール伝統織物研究所（カンボジア）と協働し、丹波布の伝承を図る。

#### (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

地元自治体は、少子化に加え就職や大学進学を契機に若者が地域外に流出することによる人口減に危機感を感じ、産業の活性化、観光振興、災害への備え、地域医療の充実等に対して「高校生提案事業」「大学との連携事業」等、オール丹波で取り組んでいる。

さらに、近接する 2 市（朝来市、福知山市）及び福知山公立大学と連携し地域活性化に向けた取組を模索しており、若者の意見を行政に取り入れれたり、定住する若者、Uターン、Iターンする若者を増やそうと取り組んでいる。

そのような中、地域のリーダーとして活躍できる人材の育成から世界を舞台に活躍できる人材を育成できる学校を目指す本校に寄せる期待が大きく、現在行っている事業の一部において、地元自治体から助成金をいただいたり、地元自治体が提携している大学から人的支援を得たりしている。

本事業を通して、地元自治体、商工会等とのコンソーシアム体制をより強固にし、地域活性化事業を活用するとともに、経費を抑える方法を模索していくことで、指定期間後の取組に継続性を持たせる。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつかいばらこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県			
2019～2021	①学校名	兵庫県立柏原高等学校								
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模				
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科（平成31年4月1日現在）				
普通科	222	239	237		698	1学年	2学年	3学年	計	
						生徒数	222	239	237	698
						学級数	6	6	6	18
⑥研究開発構想名	TAMBA Mirai Project 丹波からTAMBAへ ～グローバルな視点で丹波の課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～									
⑦研究開発の概要	丹波地域の自然資源等を活用して、丹波地域が抱える今日的な課題の解決に挑むとともに、海外交流を通して国際的な素養を身に付け、世界と地域を繋ぐ柔軟な発想で、立場の異なる人々と協働しながら地域を舞台に実践的に学び、地域や世界の未来を創出するグローバル人材を育成する。そのための研究開発として、丹波地域の課題でありながら世界的な課題にも発展するテーマを設定し、海外の教育機関等との協働による探究型学習を通して、地域と世界を関連づける豊かな発想力と課題解決に取り組む実践力を育成するプログラムとする。									
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1)目的・目標								
		<p><b>【目的】</b>                      地域への深い理解と世界に向けた広い視野を持って課題を把握する力、地域医療や農業、防災・減災など、地域の課題でありながら世界にも共通・発展するテーマを設定し、課題研究を行い、探究型学習を通して丹波の課題＝世界の課題 と捉え、「ローカル」×「グローバル」な視点で課題研究協働の中で培われる課題解決力でTAMBAを支えるリーダーを育成する。</p> <p><b>【目標】</b></p> <p>① グローバルな活動を通して、主体性、チャレンジ精神、国際的視野、発信型英語運用能力を育む。</p> <p>② ローカルな活動を通して、ふるさと意識、地域の活性化や課題解決に積極的に関わろうとする姿勢を育み、将来地域に貢献する人材を育成し持続可能な町づくりとして人材還流システムを構築する。</p> <p>③ 英語の授業に加え、英語に触れる機会、異文化に触れる機会を充実させ、高度な英語運用能力を育成する。</p> <p>④ 地域課題の解決に向けた具体策を行政機関や市民団体と共に実践する中で地域課題の解決事例を積み上げ、地域に根ざした魅力ある学校づくりを通して地域の活性化に貢献する。</p> <p>⑤ 地方の伝統校の魅力化・特色化による地域活性化のモデルケースとして広く紹介され、他地域、他校の参考事例となる。</p> <p>⑥ 「世界の人々との協働に必要な国際的視野、チャレンジ精神、英語運用能力の育成」「地域の活性化や課題解決に必要な地域理解力、発案力、実践力の育成」に向けてのカリキュラム開発において、他地域、他校のモデルケースとなる。</p>								
		(2)現状の分析と研究開発の仮説								
		<p><b>【現状の分析】</b>                      本校は、「知の探究コース」を設置し課題研究を行ってきた。平成26年度からSGHアソシエイト校として課題研究「丹波の里山」に取り組み、その研究成果を丹波市や大学との連携事業等において発表している。また、海外交流や海外留学等については、昭和41年度からアメリカワシントン州ケント市、オーバン市の高校との長期交換留学制度を開始し、53年間の交流（平成31年度）を継続している。平成26、27、29、30年度も、それぞれ1名の生徒が1年間の長期交換留学を行っている。</p> <p>平成30年度には、県教育委員会から、海外の大学や交流校、国際機関、国内の大学や企業等と連携した課題研究を通して、グローバル人材の育成を目指すひょうごスーパーハイスクールに指定され、韓国やカンボジアの教育機関との新たな交流を開始している。</p> <p>課外活動においては、インターアクトクラブが「社会的弱者・情報弱者への防災啓蒙活動とその活動～多言語防災紙芝居（地震編：フィリピン語バージョン）の作成と実施～」において、全国国際教育研究協議会主催第7回高校生国際理解・国際協力研究発表会において、国際理解・国際協力奨励賞を受賞した。</p> <p><b>【研究開発の仮説】</b>                      丹波市を中心に広がる里地里山等の豊かな自然を中心とした地域資源の価値を理解する一方で、地域が抱える課題を海外の人々と世界的な課題として共有し、協働で調査・研究を行うことで、地域課題の解決、地域の活性化はもとより、以下の資質・能力が育成できると考える。</p> <p>①地域の魅力と課題を理解し、活性化や課題解決に積極的に関わろうとする姿勢</p> <p>②世界と地域を結び付けた広い視野から地域課題を解決しようとする柔軟な発想力</p>								

	<p>③価値観や文化の異なる人たちと協働しながら課題解決に取り組む実践力 そして、これらの資質・能力を培うことで、将来、グローバルな視点で地域を創造するリーダーを育成するとともに、地元への定着やUターンにより地元人材の還流が生まれる、と仮説を立てた。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) <b>地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b> 丹波地域の今日的な課題でありながら、SDGsのテーマに関連する世界的な課題にも発展する以下のテーマを中心に、海外の教育機関と協働で課題研究に取り組む。</p> <p>① 高齢化、人口減少・流出への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興 ケント市、オーバン市（アメリカ ワシントン州）</li> <li>・地域医療・高齢化問題 桃園市至善高等学校（台湾）</li> <li>・教育事情 パナサストラ大学（カンボジア）</li> <li>・丹波布の復興と伝承 クメール伝統織物研究所（カンボジア）</li> <li>・空家の利活用 等</li> </ul> <p>② 豊かな自然環境との共存、有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・減災対策 金海外国語高校（韓国）</li> <li>・里山、丹波竜を生かしたグリーンツーリズム</li> <li>・森林再生 等</li> </ul> <p><b>【実施方法】</b> 主として「総合的な探究の時間」、「学校設定科目」で実施する。 地域・海外でのフィールドワーク、大学・研究機関等との連携、海外交流校との協働学習などの体験的、実践的な学びを通して、少人数グループによる課題解決型探究学習により課題研究を進める。また、地域行政機関、NPO法人、地元企業等と協働しながら地域を舞台に行動する具体的な課題解決策の提案を「グローバル・サミット（仮称）」（学校主催）、地域課題から世界を考える日（学校主催）、高校生国際問題を考える日（県教委主催）等で発信する。</p> <p><b>【グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ ワシントン州との長期交換留学。韓国、カンボジアのNPO、大学への訪問交流、短期留学生受入、台湾の高校との交流、海外の大学や高校とのテレビ会議を実施する。</li> <li>・ICTを活用した英語教育、丹波イングリッシュ・キャンプ（地域のALT、ボランティアの協力を得て、地域の中学生を招いた英語漬けの合宿）、テレビ会議等による海外校との協働学習、英語でしゃべらんち（地域の外国人と高校生が英語で話す場を毎日昼休みに提供）、ひょうごグローバル・リーダー育成キャンプ（県教委主催）等に積極的に参加する。</li> </ul> <p><b>【検証評価】</b> 地域の行政機関、企業関係者、専門家による外部評価。地域フォーラム、連携大学での発表会の評価及び各種コンテストでの成績。課題研究の取組状況、研究内容に対する評価規準に基づく評価。また、生徒対象事前・事後アンケートによる内容の理解度や意識変容の調査。評価結果は、次年度の実施内容、実施方法の改善に活かす。 自己評価・取組状況・学習成果に対する評価規準に基づく評価。生徒対象アンケートによる内容の理解度や意識変容の調査。各種コンテストでの成績。GTEC、実用英語検定等の外部検定試験の成績。</p> <p>(2) <b>カリキュラム・マネジメントの推進体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進部：地域との協働による高等学校教育改革推進事業全般の企画・立案・実施と各教科と連絡調整についての研究</li> <li>・国際交流委員会：国際的活動や交流、姉妹校との協働の企画・立案・実施</li> <li>・行事検討委員会：校外活動の企画・運営・実施についての研究</li> <li>・教育課程委員会：教育課程についての研究</li> <li>・学校評議委員会：研究活動の評価方法および学校評議員との連絡調整についての研究</li> <li>・校務運営委員会：事業全般の検討と職員間の連絡調整</li> </ul> <p>(3) <b>必要となる教育課程の特例等</b> 設定しないが、3年時に学校設定教科「グローバル」の設定（令和2年度開講予定）</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	